

久慈、宮古、小名浜の沖合のGPS波浪計による津波の観測結果について

1. はじめに

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の津波について、岩手南部沖(釜石沖)GPS波浪計の波形(陸上局から回収された記録装置のデータを含む)を3月28日付で公表*¹しました。その後、岩手北部沖(久慈沖)、岩手中部沖(宮古沖)、福島県沖(小名浜沖)GPS波浪計についても解析が終わりましたので報告いたします。

* 1 津波は三陸沿岸で7波襲来-釜石沖GPS波浪計のデータ回収・分析結果-

<http://www.pari.go.jp/info/tohoku-eq/20110328mlit.html> (港湾空港技術研究所)

http://www.mlit.go.jp/report/press/port05_hh_000017.html (国土交通省港湾局, 詳細データ提供申請様式付)

2. 解析結果

下の図は全国各地のGPS波浪計による津波波形です。太線はリアルタイムに港湾空港技術研究所へ伝送された部分、細線は陸上局から回収された部分です。本報では、岩手北部沖、岩手中部沖、福島県沖について陸上局のデータが追加されました。この図から以下のことが分かります。

- ①岩手北部沖の最大波は、陸上局データに含まれ、15時19分頃に約4.0mでした。
- ②岩手中部沖の最大波は、リアルタイム伝送データに含まれ、15時12分頃に約6.3mでした。
- ③福島県沖の最大波は、陸上局データに含まれ、15時15分頃に約2.6mでした。
- ④岩手北部沖～宮城北部沖の第1波の峰を詳しく見ると、↓印のところに小さな峰があり、この高さは北へ行くほど顕著に小さくなっています。

なお、岩手中部沖と福島県沖では、先に報告した岩手南部沖と同様、津波が来襲し始めてからは来襲前に比べて潮位の観測値が全体的に高くなっており、地盤変動などその原因については検討中です。

